

NEWS LETTER

特定技能1号について

十二月になり、緊急事態宣言も明けて久しい今日この頃ですが、皆様はお元気にお過ごしでしょうか。これから、コロナだけでなくインフルエンザやノロウイルスも流行り始めますね。緊急事態宣言は明けましたが、FSC社員一同、より一層感染症対策に取り組んでまいります。

無事に就業開始して、ようやく一安心と落ち着いてきたところで、「定期届出」にご協力いただき、誠にありがとうございました。最後の月に働き始めた方、特定活動として働いていた方、三か月間きちんとしていた方など、ひとりひとりの事情が違う中でご尽力していただき、本当に助かりました。十二月になり、また定期届出の季節がやってまいりました。二回目もどうぞご協力をお願いいたします。

さて、三か月に一度提出する定期届出は作成しましたが、「随時届出」という書類があることをご存じでしょうか。基本賃金や諸手当の金額の変更や、事業所名の変更なども入管へ提出しなくてははいけません。もし、何かしらの変更が生じた場合には各担当へご連絡をお願いいたします。二月から介護職の最低賃金が上がるとのニュースを見ました。こちらからもお声をおかけいたします。

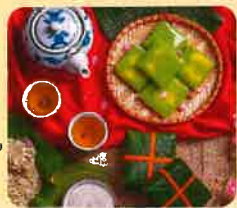
また、新たに「報告」がございます。これからも様々な施設様へ良い人材を紹介していく中で、特定技能1号ビザの取得者全員にPCR検査を受けていただき、陰性が確認でき次第施設の関係者様と会うように決めました。送り出し機関側にも全社了解していただいております。なによりも施設の皆様とご利用者様の健康を第一に考えた結果です。これから受け入れる施設様も安心してお待ちください。

特定技能1号ビザの みんなに 聞いてみた

今回はベトナムのおすすめお菓子についてご紹介です。

「Bánh cốm」というこの緑色のお菓子。こちらは通常より早く収穫した緑色のもち米で作ったお餅の中に緑豆とココナッツの餡が入ったものです。甘くてもちもち柔らかい触感が特徴とのこと。

若いお米で作るお菓子だから
「若い二人の門出を祝う」という
意味もあり、結婚式でのお土産にも
使われるそう。お餅に餡。



この組み合わせは世界共通なのですね！

一介護業界をIT化一

今回は、居住空間を短時間で抗菌・抗ウイルス空間へと変化させる「ナノガードγ」をご紹介します。植物由来の成分と3つの界面活性剤が主成分のナノガードγをミスト噴霧器で壁面、天井、カーテンなどに密着させることによって、施行直後から約1年間効果を発揮します。このナノガードγ、実は金属イオン不使用でアレルギーや銀・銅による変色はありません。また、光触媒の効果の発揮に必要な放射線や紫外線や可視光線などのエネルギーは不要ですので暗所でも使用できます。ナノガードγの噴射は様々な会社が独自の方法で行っております。ですから、全ての会社がよいというわけではございません。そのため、私たちFSCは「特約施行代理店」という、認定の特約店と提携を結びました。ご興味がありましたら、ぜひご連絡くださいませ。詳しくはこちら→



FSCスタッフコラム 齋藤【トラブル対応】

当たり前ですが、特定技能1号外国人の方たちは、私たちと生まれ育ったお国と環境が違います。生まれ育った国と環境が違うということは、常識が違うということです。外国人に対してごみの捨て方や電車の乗り方に「常識はずれ」という言葉を使う人がいますが、外れているのではなく「知らないだけ」、「日本と違うだけ」なのです。そして、その「常識」というものは厄介で、同じ日本人でも年齢によって異なる場合があります。今回はそんな「常識」にまつわるトラブルを1つご紹介いたします。ある施設の特定技能1号外国人で、出勤時間になっても出勤してこない、連絡もしてこない子がいました。不審に思った上司は本人の家に駆け付けました。シフトの見方を誤り、公休と思い込んでいたそうです。上司は今からでも出勤して欲しいと伝えましたが、この子はその日を休みと思い込んでいたため、プライベートな用事を入れておりそちらを優先してしまいました。このことについて「外国人は常識はずれ」と思う人もいるでしょう。現に弊社でも「とんでもないことを…」と全員が口を揃えました。しかし、この子は今迄留学生でアルバイトでしか働いたことがなく、正社員という立場は初めてでした。勝手に欠勤して、状況が悪くなると勝手にやめる。日本人であっても、責任を理解していない人はやらかします。「外国人が常識外れ」な訳ではありません。「責任」を理解していないだけ。日本の社会人としての「常識」を知らないだけなのです。今回再発防止のためにその子に話したことは、ミス自体の反省だけでなく「自分が判断して行った行動の影響」です。自分の行動が誰に迷惑をかけ、どんなトラブルの引き金になるのか。そこまで話してようやく自分の行動がなぜ悪かったのかを理解してくれました。ぜひ、施設長様やスタッフの方には「外国人だから常識がはずれている」と思わず、「常識を知らないだけなんだ」という目線で教育をして頂ければと思います。常識はずれとは、「やってはいけない」と知っていないながらやる」という意識だと思います。彼女らは「知らないからやってしまった」だけです。もちろん、私たちFSCも担当している外国人への教育を続けていきます。温かい目で見守っていただければ幸いです。もしも、何かトラブルがあった際にはご相談ください、一緒に彼女たちを育てて参りましょう。

☆.*介護施設で働く特定技能1号外国人のコメント*。☆

レ・ティ・タオチンさん(草加市 いろは様)

今の仕事は前のイメージとちょっと違います。

めっちゃ大変だと思ったけど、やってみてからそんなに大変ではありません。

毎日みんなの事見てもらって、ああ自分の家族みたいだなあって思っていて、

毎日おばあちゃん、おじいちゃん達が笑えば、ウチの心も嬉しいです。

みんなの痛いところを見ると、何でか自分も痛くなりますという感じています。

やり方とかは仕事しながら、見て学んだ。

でもここにちょっと大変な事がありますよ！！

国が違いますので、やり方もちょっと違いますので、どんどん勉強しなきゃいけないですよ。！

ハーティ・カンさん(野田市 なごみ中野台様)

介護仕事として働き始める前は、あまり仕事ができないのではないかと心配していましたが、思ったほど大変ではないと感じました。嬉しいです、私もあなたたち(利用者さんたち)を助けて幸せです。

ブイティ・フォン・リンさん(草加市 草加園様)

介護施設で働く前と今とで、印象は変わりました。

介護施設で働く後、人に対して優しくなれるのを感じできました。自然と相手を理解するために動き、優しく接することができるようになりました。優しい気持ちで人と接することができれば、私の日常はより豊かで満ち足りたものになる。

また、介護施設で働く後、いろいろなことも学べました。例えば人の人生に関われる仕事を心得ました。認知症を患った患者さんの場合、その方がそれまで何を大切に生きてきたのかが、症状に色濃く現れます。こういったケースを目にすると、もし自分とか自分の親が認知症を発症したら、何に固執するだろう。そんなことを日々考えさせられます。また、気難しい利用者さんの、頑なな表情の向こうにある苦悩や寂しさ、純粹さに触れることで、人の心の深さを知ることもあるでしょう。他の仕事では決して味わえない、現実と日常がここに 있습니다。介護の仕事やってよかったと思います。

ちょっと(?)日本語が面白いところもありますが、彼女達を書いた文章を訂正せずにそのまま掲載しました。彼女達のリアルな気持ちを感じて頂ければ嬉しいです(FSC)



今回のテーマ

「介護施設で働く前と、今とでは
感じ方に違いはありますか？」